広報はいづか 77 号（平成 23 年 10 月）

ウシガエル ----- 分布拡大の秘密

ウェットランドの管理道を歩いていると、ときどき小さなカエルが死んでいるのを見かけます。よく見ると、変態して間もないウシガエルです。一生を水から離れずに暮らすカエルなので、たとえばイルカやクジラのように、水から飛び出してしまう病気でもあるのかなと、不思議に思ってきました。

気にかけて見ていると、やがてヒントに気づくもので、昨年なぞが解けました。小さなウシガエルが路上で死んでいるのは、きまって雨の翌日なのです。さらに、そんな日に道路側溝の中を注意して探せば、水がたまっている所には、同じようなサイズの生きたウシガエルを必ず見つけることができます。彼らは、雨が降るたびに、新天地をもとめて冒険の旅に出ているのでした。体が乾くとすぐに死んでしまうという、大きなリスクをかかえながら。

ウシガエルは別名食用ガエル。かつて養殖用に持ちこまれた外来種なので、分布の拡大は人の手によるものとものの本には書かれていますが、長年疑問に思っていました。人がめったに行かないような、奥まった場所のちっぽけな池でも、ボワン、ズウォンと鳴いているのは、ほんとうに人がわざわざ運び入れたのだろうか。ブラックバスのように趣味の対象ならいざ知らず、養殖対象ならば人は採算で動くものでしょう。

おそらく、彼らは自力でそこに辿り着いたのです。多大な犠牲をはらいながら。